

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)

【公表番号】特表 2019-506936 (P2019-506936A)

【公表日】平成 31 年 3 月 14 日 (2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報 2019-010

【出願番号】特願 2018-539089 (P2018-539089)

【国際特許分類】

A 6 3 C 5/02 (2006.01)

A 6 3 C 5/06 (2006.01)

【F I】

A 6 3 C 5/02 A

A 6 3 C 5/06 B

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 21 日 (2019.8.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

前記プラットフォーム 3 は、スロベニア特許公開 SI 24358 A に開示されている実施例と同様に、スキーのフロントパーツ 1 及びリアパーツ 2 に面するその底面 3 3 に、中心に位置するキャビティ 3 5 が設けられている。該キャビティ 3 5 内で、二つの対向する凹部 3 5 1 及び 3 5 2 が利用可能であり、これらは、二つの拘束突起部 5 1 1 及び 5 1 2 と協働するようにされている。前記拘束突起部の一方は、スキーのフロントパーツ 1 に配置され、他方は、スキーのリアパーツ 2 で利用可能である。フロントパーツ 1 及びリアパーツ 2 が整列されると、前記プラットフォーム 3 は、適切な角度で、軸線 5 0 1 を中心に回転され、前記突起部 5 1 1 及び 5 1 2 は、プラットフォーム 3 の前記キャビティ 3 5 の中に入り得る。プラットフォーム 3 がスキーの両パーツ 1 及び 2 と整列する位置に、垂直軸線 5 0 1 を中心に、前記プラットフォームを回転させると、前記拘束突起が、プラットフォーム 3 における前記キャビティ 3 5 内にある前記凹部 3 5 1 及び 3 5 2 の中に位置することになり（図 1 参照）、その結果、プラットフォーム 3 は、しっかりと、しかし、取り外し可能に、スキーのフロントパーツ 1 及びリアパーツ 2 の両方と相互に連結される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

さらにまた、第三拘束突起部 6 3 は、スキーのリアパーツ 2 の頂面において利用可能であり、それを中心にスキーの前記フロントパーツ 1 及び前記リアパーツ 2 が回転され得る幾何学軸線 1 0 0 から適切な距離離して配置されている。前記拘束突起 6 3 には、円周の一部分の形態の溝 6 3 0 が設けられており、これ溝 6 3 0 は、少なくとも、プラットフォーム 3 の後部領域 3 2 の突起部 3 2 0 と協働するようにされている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

スキーの使用時、プラットフォーム 3 の前部領域にある突起部 3 1 0 は、第一保持突起の溝 6 1 0 の中に位置し、同時に、プラットフォーム 3 の後部領域にある突起部 3 2 0 は、第三保持突起の溝 6 3 0 の中に位置し、そこで、好ましくは、拘束機構 6 3 1 によって拘束され、それにより、一方では、スキーの両パーツ 1 及び 2 が、しっかり相互連結し、他方では、プラットフォームの各回転が妨げられる。